

來賓挨撈

# 天皇陛下のおことば

2020年12月14日 開会式

国内外から参加者を迎え、GEA国際会議2020が開催されることをうれしく思います。気候変動やその他の脅威から地球環境の保全を図ることは、私たちが取り組むべき喫緊の課題と言えます。私がこれまで関わってきた「水」の分野においても、近年頻発する水災害はその遠因に気候変動があると分析されており、今十分に対策を講じなければ被害が激化していくことが懸念されています。

また、現在世界各地で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、人類にとって大きな試練です。この困難な状況を乗り越えていくために、今後、私たち皆がなお一層心を一つにして力を合わせていくことが大切です。同時に、この感染症の試練は、私たちの日々の生活や社会の在り方を改めて見つめ直す機会ともなると思います。このような中で、「環境と経済の統合～環境と成長の好循環を目指して～」をテーマとした本会議は、持続可能な社会の構築に向けて、私たちが国や立場の違いを越えて協力し合うため、世界の叡智を結集する貴重な機会です。

今年2020年は、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標」の達成に向けた、「行動の10年」の始まりの年であるとともに、気候変動に関する「パリ協定」の実施が開始される重要な年です。世界全体がこれらの目標に向けた取組を本格的に推進していくことが求められている現在、私たちの望む未来に向けて一人一人がどのように行動するかが問われています。

今回の会議では、持続可能な開発目標、気候変動、生物多様性の保全、循環経済など幅広い課題に対する国や企業の戦略、科学技術や金融の果たす役割などについて、様々な分野の専門家を迎え、議論が行われると聞いています。この会議で、私たち人類と、私たちの子孫、そして更には全ての生き物が、未永く地球環境の恵みを楽しめるような未来の実現に向け、活発な議論が行われ、世界に向けて発信されることを期待いたします。そして、新型コロナウイルス感染症の試練を乗り越え、持続可能な社会の構築に向けた具体的な取組が更に進むことを願い、挨拶いたします。

# 菅 義偉 内閣総理大臣

2020年12月14日 開会式

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、本日ここに12回目となる地球環境行動会議が開催されることに当たり、一言御挨拶を申し上げます。

気候変動の影響が現実のものとなるなど、地球環境問題が国際社会にとって大きな脅威となっています。その対応には、すべての国による大胆な行動が不可欠です。私は、10月の所信表明演説で、2050年カーボン・ニュートラルを宣言しました。これは我が国が世界の流れに追いつき、一步先んじるために、どうしても実現をしなければならない目標であります。環境対応はもはや経済成長の制約ではなく、経済社会全体の変革を後押しし、大きな成長を生み出すものであります。

こうした「環境と成長の好循環」に向けて発想の転換を行うべく、今回の経済対策では、過去に例のない2兆円の基金を創設し、野心的なイノベーションに挑戦する企業を今後10年間継続して支援をしていきます。例えば、非常に薄くて軽く効率的で、壁などにも設置できる次世代太陽光発電技術や、二酸化炭素を回収して建築材料や燃料として再利用する技術、また、水素を大規模で低コストで製造して流通させ、飛行機などのエネルギーとして利用する技術、低コストで超高効率の蓄電池技術といった先進的な技術の実用化をこの基金によって加速します。同時に、自動車から排出される二酸化炭素をゼロにすることを目指し、電気自動車などを最大限導入していくための制度や規制を構築します。

また、今年1月には、「ゼロエミッション国際共同研究センター」を設立し、本日御講演をいただく吉野彰先生を研究センター長にお迎えをしました。実用化を見据えた研究開発により、世界のグリーン産業をけん引し、「経済と環境の好循環」を創出していきます。

加えて、昨年のG20大阪サミットで共有され、今や86カ国が賛同する「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の実現も重要です。海洋プラスチックごみによる新たな汚染を2050年までにゼロにすることを目指し、途上国への技術支援などを行っていきます。美しい地球を次の世代に引き渡していくのは、今を生きる私たちの責任です。今回の地球環境行動会議において、環境、経済、社会の問題の同時解決に向けた、実りある活発な議論が行われることを大いに期待をしております。

最後となりましたが、本日御出席の皆さんの御健康と益々の御活躍を祈念し、私の御挨拶とさせていただきます。

令和2年12月14日、内閣総理大臣菅義偉。おめでとうございます。